

普段の生活行為を支援すること

在宅サポートセンター生田でオープン・セミナー開催



在宅サポートセンターのオープン・セミナーがこのほど同センターで開催されました。今回のテーマは「介護の役割」。当センターの前センター長で現在は愛媛県在宅介護研修センター長を務める金田由美子さんが担当しました。

この日は介護士や看護師たち 14 名が参加。セミナーでは、「介護の役割とは、高齢者や障害をもった

方々の当たり前の生活を保障する理論と技術」だということ。具体的には、相手の機能に合わせた介護や残された機能を引き出す介護と同時に、介護される人の価値観や自尊心を大切にすることが基本となることを確認しました。

それを踏まえたうえで、「食事はおいしく、排泄はすっきりと、入浴は気持ちよく」を支援することが「いままで通りの生活」を実現すること。立つ、座る、歩く、口から食べるといった普段の生活行為を実践していくことが、リハビリにつながることを具体的な事例を通して学びました。

この後、入院生活が長くなり座位がとれなくなった方の事例をもとに、なぜ前かがみの姿勢ができなくなるのかを、実際にギャッジベッドを使って再現。背もたれを上げてベッド上で寝ながら食事をするのが、食事をするうえで基本となる「前かがみの姿勢」を阻害してしまうことを、参加者一人ひとりが体験しました。

残された機能と意思を活かす介護を学ぶ

介護の本質を再確認

ひびき通信

平成 30 年
6 月版

グループホーム響で運営推進会議

グループホーム響の運営推進会議がこのほど、当センターにて開催されました。同会議は、地域の方々やご家族と介護に関する情報を共有し連携を図ることを目的に



デイサービス響 勤続職員に 感謝状と 記念品

勤続 3 年の夏目良介職員

常に利用者の立場になった介護を実践

在宅サポートセンター生田では、この 5 月に勤続 3 年となった夏目良介職員に対して、感謝状と記念品を贈りました。夏目職員は、デイサービス響の常勤職員の 1 人。常に利用者の目線に立ったコミュニケーションや介助を実践しています。また、レクリエーションについても、創意工夫とあわせ、常にご利用者の楽しさを追求する姿勢はチーム一番のアイデアマンです。職員ミーティングの席上、平田センター長より感謝状と記念品が贈呈されました。



開催されています。この日の会議には、地域住民の方やご家族など十名が参加。管理者より入居者の状況やイベントについて報告があった後、健康チェックを通して介護予防について、意見を交換しました。